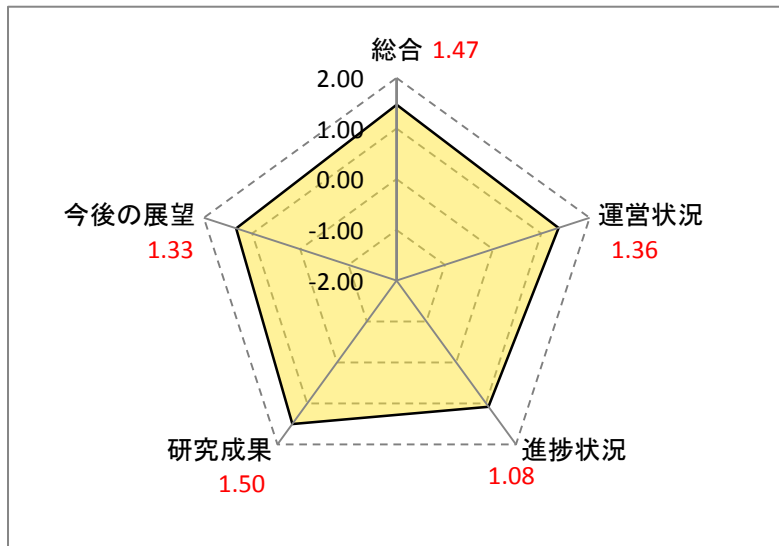


戦略的研究推進センター平成27年度研究プロジェクト評価

研究プロジェクト：萌芽研究部門 山陰地方強靱化を目指した自然災害の統合的研究

	総合	運営状況	進捗状況	研究成果	今後の展望	得点の平均
得点	1.47	1.36	1.08	1.50	1.33	1.35
評価	B+	B+	B+	A	B+	B+



(評価コメント)

【総合評価からのコメント】

- ・当初の目標に近い成果を得ており、高く評価する。この結果を島根県の災害対策にも反映させてほしい。
- ・研究成果がそのまま重要な社会貢献であるが、防災フォーラムや公開シンポジウムなど地域社会へ向けた積極的な情報発信を期待する。全体として、非常に重要なテーマであり、このような取り組みはプロジェクト終了後も継続していくことを期待する。
- ・大型科研費の獲得や研究発表の状況から、優れた研究成果をあげられたと判断する。以上より、総合的に判断して総合評価をBとする。
- ・自然災害に関する統合的研究の成果が災害軽減のシステム構築へと発展することを期待する。
- ・本学の貢献が重要なプロジェクトであり、各項目につきほぼ順調に成果をあげている。
- ・16名の比較的大きな組織であるが、研究グループの関連性は高い。論文掲載の計10件は、一人当たり0.63と他のプロジェクト研究と比べれば低い。防災に直結するデータ取得・文献調査に重きをおいた結果と思われる。科研費2件を含む外部資金4件は一人当たり172万円と多い。国交省の防災ドクターおよび県の道路防災ドクターなども引き受けており、地域の官学連携関係は構築されてきている。また、文科省の「日本海地震・津波防災プロジェクト」の山陰地域の調査も引き受け、国との繋がりもある。防災データベースが充実し、HPに掲載されたことで、個々の地域住民への貢献も明確となった。産官学連携についても、山陰防災フォーラムを定期的に行って着実に進行させている。
- ・災害の予防手段を提言できる研究に特化したほうが良いと思われる。
- ・さまざまな観点から災害に対する強靱化、減災を考え、その対策をとっておくことは重要と思われる。同時に災害が起こった時にどうするかという観点も必要と思われる。

【各評価項目からのコメント】

- ・複数の災害を対象に多方面からのアプローチで研究を行っており、他機関との連携も含めて複雑な活動・組織であるが、上手に機能している。
- ・多くのメンバー(16名)で構成されたプロジェクトであるが、発表論文等の研究成果からは、メンバーが機能的にプロジェクトに貢献できていないように思われる。プロジェクトのマネジメントに工夫が必要だったと感じられる。
- ・概ね計画通りに研究を進められたように思われます。論文掲載などの研究成果も順調に上げられ、外部資金も多く獲得されている点は評価できます。
- ・一部に不十分な面があるようでしたが、概ね順調に成果をあげられたと思います。
- ・十分な学術論文や学会発表がなされ、外部資金の獲得もされている。
- ・様々な災害に対するデータベースの構築、研究成果の地域へのフィードバックは評価できる。これらの情報の統合化により連携をさらに推進して、複合災害への対応策を強化して欲しい。
- ・全学横断的な災害研究体制が構築されつつあり、島根県、国交交通省との連携による成果も期待される。